

会議録

会 議 の 名 称	第1回 清須市公共施設個別施設計画（仮称）策定委員会
開 催 日 時	平成30年8月7日（火） 午後3時～4時15分
開 催 場 所	清須市役所 南館3階 大会議室
議 題	1 あいさつ 2 議題 (1) 清須市における公共施設マネジメントについて (2) 計画策定までの流れ 3 その他
会 議 資 料	資料1 公共施設マネジメントの必要性 資料2 計画策定までの流れ 資料3 プロセスマップ
公 開 ・ 非 公 開 の 別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍 聴 人 の 数 (公開した場合)	1人
出 席 委 員	小松委員（委員長）、後藤委員、富田委員（宮崎氏代理出席）、 飯田委員、風岡委員、葛谷副市長、斎藤教育長、平子総務部 長
欠 席 委 員	なし
事 務 局	〔総務部財政課〕 森高総務部参事、岩田課長、石田課長補佐、炭竈係長、清本 主任
<p>1 あいさつ (岩田課長) 財政課長の岩田でございます。 本日は、お忙しいところ、本策定委員会にご出席いただき、ありがとうございます。 ここで、ご報告いたします。清須市文化協会会長の富田委員は、都合により欠席する旨の連絡がありました。本日は、代理で副会長の宮崎史朗様に出席をいただいております。 本市は、平成28年度に公共施設等総合管理計画を策定いたしました。今後は、この計画に基づき、公共施設の維持管理コストの削減に向け、施設の長寿命化・統廃合等の方針を示した「個別施設計画」を策定してまいります。 そこで、策定委員会を設置しました。今年度は、3回の開催を予定しています。 また、この会議は規定により公開となりますので、よろしく願いいたします。 それでは次第に従って会議を進めてまいります。 始めに、市を代表し、葛谷副市長から一言ご挨拶申し上げます。</p>	

(葛谷副市長)

本日は第1回清須市公共施設個別施設計画（仮称）策定委員会ということで、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

これからの公共施設のマネジメントを考えて頂く委員会でございます。よろしくお願い致します。

さて、少子高齢それに続く人口減少が進む中で、公共施設の今後の維持管理費の負担が全国的にも課題になっております。

本市でも、そういったことを踏まえて、平成28年度に公共施設等総合管理計画を策定したところではございますが、今後の公共施設の維持管理コストを削減するためにも、面積換算にして、今後40年間で公共施設を17.7%削減するという計画にしております。

また、幸い清須市では人口は、このところ増えているというところで、今月の広報を皆さん見ていただいたと思いますが、平成29年度の出生率でいきますと、愛知県内では第1位というところではございまして、なんとか今のところは増えております。

ただし、私どもの推定では、平成32年度をピークに人口減少をしていくという推計をしておりますので、人口が減っていくというのは、間違いないと考えております。

また、ジャーナリストで産経新聞論説委員の河合雅司さんという方が書かれている「未来の年表」という本の中から、人口減少日本がこれからどうなっていくのか、なにが起こるのか、年代ごとでどんな現象が起こるのかをご紹介します。

2020年東京オリンピックの年には、日本の女性の2人に1人が50歳以上、それから2024年、これは一般的には2025年問題と言われていますが、団塊の世代の方が後期高齢に入ります。その年には、3人に1人の方が65歳以上で、しかも、その半数以上が75歳以上という、いわゆる重高齢社会になっていくのかなというところではございます。

そういったことも踏まえて、公共施設のマネジメントは本市において大きな課題、そして緊急の課題であるかなという考えであります。

また、将来の財政状況ということも考えますと、大幅な税収増額というのは見込めない中で、少子高齢社会による社会保障費の増大というところが非常に見込まれておまして、若者1人が高齢者1人を支えていく、いわゆる「肩車型社会」、そんな社会が近づいているということが間違えない事実かなという考えです。

そうして、社会保障費が増えていき、これで公共施設の維持管理費が増えるということになりますと、本当にこのまま清須市が持続可能なのかなというところが、大変懸念される所です。

そうしたことで、手遅れになる前になんとか維持管理コストの縮減に努めていけるように方向性を示せるようにしていきたいなという思いでございます。

今日ご出席の皆さんに共有していただいて、これからの公共施設の長寿命化ですとか、統廃合・適正配置ということがいかに実効性のある取り組みかということも議論していただきながら、忌憚のない意見を賜り、活発な議論をしていきたいと思っております。

そのようなことをお願い申し上げて、一言ご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願い致します。

(岩田課長)

本策定委員では、清須市公共施設個別施設計画（仮称）策定委員会要綱第3条第3項の規定により、委員長には、学識経験者である名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻の小松尚准教授をお願いしております。

小松准教授は、愛知県建築審査会委員や名古屋市学校長寿命化計画検討懇談会委員ほか各地の自治体で建築、公共施設マネジメントに関わっていらっしゃいます。

今回、委員長として会議を取りまとめいただくにあたり、一言いただいたうえで、引き続き、会議の取り回しもお願いしたいと思います。小松委員長よろしくお願い致します。

(小松委員長)

皆さん、こんにちは。そして、はじめまして。ただ今ご紹介いただきました、名古屋大学の小松です。

ご紹介いただいたように、私は、名古屋市、三重県津市、松阪市などの自治体で公共施設のこれからについて、色々な計画の策定や、学校の立替計画に携わってきました。

そういった経験も踏まえて、今回の清須市の計画もお手伝いできればと思っています。

今日、ここにいらっしゃっている皆さんはもう承知のことだと思いますが、高度経済成長の時には、とにかく色々造って成長していく、拡張していくというのが、ある意味目標でした。

しかし、これからは集約と再利用していくということであり、かなり色々な意味で我々の発想の転換も行いながら取り組まないといけないと考えております。

その時に、どうしてもこの話は財政の方から始まっておりますので、お金の話とか面積のような話、つまり数字の話が多くなりがちです。

しかし実際には、使われる市民の方が、実感を持てる、つまり、厳しい財政の中でも、なんか「上手くいっているね」という風に言ってもらえるようなものを作っていくことが、すごく大事だと思います。

また、まちづくりの観点で、市民の皆さんと意見を述べ交わすというようなプロセスを持って進めないといけないと思っていますし、そういう計画にしていきたいなと思っています。

それからもちろん、市民の役割もこれからどんどん変わってくると思います。

これまでのモノが無い時代では、造ってくれ、欲しい、何とかしてくれといういわゆる要望型が一般的でしたが、これからはそういう要望型ではなく、どうしたら上手くいくかということと一緒に考えていく、最近の言葉で言うパートナーとして、訴えかけていかなければならないなという風に思っています。

それから、今日こちらに控えていらっしゃる市役所の方、やはり一番大きな問題は今の行政の組織というのは、基本的にはかつての成長時代のやり方に沿っています。

そうすると、縦割りというような言葉がありますが、その組織に対してどのように横串を刺していくかということが非常に大事になってまいります。

ですから、これも市役所の方々、これから色々考えていただけたらと思いますが、どうしたら上手くいくかということと一緒に考えていきたいなという風に思っています。

私自身、こういうことを清須市だけではなく、他の自治体でも皆さんと、想いを共有しながら進めてきておりますので、いい形で1年後に計画がまとまるように協力していきたいと思っていますので、ぜひご協力の程よろしくお願ひします。

では、会議の取り回しをここからは私の方でということでございますので、議題に移ってまいりたいと思います。その前に今日は、第1回の策定委員会ですので、ご出席の皆様にお名前と所属と少し簡単な自己紹介をお聞かせいただければと思います。お名前と所属だけで結構ですので、後藤委員からお願いします。

(後藤委員)

私は清須市体育協会の者で、今年から会長になりました後藤と申します。

スポーツ全般のことだとか、そういったことで周りの人間と色々やり取りをしているのですが、本職は、先生の方には一応お世話になっているかもしれませんが、建築士事務所に勤めておまして、名古屋市などに色々な申請を出すなどしておりますので、どこかで関わっていたのかもしれませんが。そういったことが仕事でございます。以上です。

(宮崎氏)

こんにちは。

私は清須市文化協会の副会長ですけれども、今日は富田会長のご都合が悪く、急遽私と

ということですので、代わりに出席させていただきました。

文化協会も高齢化とともになかなか新しい方が入っていただけないなということが悩みでございます。若い方にたとえ少しでも入っていただいて、何とか頑張ってやっていきたいという風に今は委員として思っております。よろしくお願いいたします。

(飯田委員)

寿会会長の飯田でございます。

簡単に寿会のほうの組織を説明させていただきますと、先ごろから少子高齢化の中で約4,800名会員がいるわけですが、年齢が高くなっていくということで、世の中には医療費とか、そんなお話があるとは思いますが、なんとか活動いたしております。色々お世話になります、よろしくお願いいたします。

(風岡委員)

清須市保育園保護者会連絡協議会代表の風岡と申します。

私達保護者の皆が思っているのは、やはり沢山産んできと言われて、また働いてと言われて、両方言われている世代なので、そういう立場としては、やはり産んだ子ども達を安心して預かっていただける場所をぜひ充実させていただけたらなという風に思っております。よろしくお願いいたします。

(平子総務部長)

恐れ入ります。総務部長の平子でございます。

この4月から総務部長として働いております。3月まではどちらかというと事務局側、財政課におりました。当然総務部長という立場ですので、お金面の話というのは大変関心のあるところでございます、そればかりとって恐縮というところなのですが、いずれにしても、お金を維持できなければ、建物自体は維持できませんので、そういった面で非常に重要だと思います。そういったところで色々ご無理申し上げるかもしれません。それについて、一つよろしくお願いいたします。

(齋藤教育長)

教育長の齋藤です。

教育委員会といいますと、学校施設が非常に多くて、生涯学習施設これも非常に多く、またスポーツ施設も非常に多いということで、この市の多くの施設がこの教育委員会に属するものではないかとそういう風に思っております。

ただ、一番心配なのは、この市は4町が合併していて、古くから伝統のある町で、それぞれが同じような時期に建物を建てた、そういうことから、ちょうど今後建て替えとか長寿命化とか色々なことをしていかなければいけない、そんな難しい時期にきていると思っております。皆様のお話を聞きながら、またご指導も頂きながらやっていけるということで勉強させていただければと思っております。以上です。

(葛谷副市長)

先ほどもご挨拶させていただきました、よろしくお願いいたします。副市長の葛谷です。

先ほども長々と話をしてしまったのですが、ちょうど人口構造の変革期に我々世代が出くわしているということで、一緒になって考えていけたらなと思っております。よろしくお願いいたします。

(小松委員長)

それでは事務局の方自己紹介、お願いします。

**【事務局自己紹介】**

## 2 議題

(小松委員長)

それでは、早速議事に入っていきたいと思います。まずお手元の議事次第をご覧ください。ちょうど今、中盤の挨拶までが終わったところでございます。

次にこれから次第2の議題(1)(2)について始めていきたいと思ひます。

1つは「清須市における公共施設マネジメントの必要性について」、もう1つは、「計画策定までの流れについて」スケジュールについて、まとめて事務局から説明頂いて後ほどご意見頂きたいという風に思ひます。

では、事務局のほうから説明をお願いします。

(炭竈係長)

先ほどの挨拶に続きまして、財政課管財係の炭竈でございます。

私からは、議題(1)「清須市における公共施設マネジメントの必要性について」ご説明をさせていただきます。

### 【資料1を説明】

(清本主任)

財政課管財係の清本でございます。私からは議題(2)の「計画策定までの流れについて」をご説明させていただきます。

### 【資料2、3を説明】

(小松委員長)

ありがとうございました。

分量的にかなり多かったとは思ひますが、非常に大事なことをかなり上手く要約して、説明して下さったのではないかなという風に思ひます。

少し私からも補足させていただきます。議題(1)の「清須市における公共施設マネジメントの必要性について」は、少子高齢化と、建物の老朽化ということを見ると、今後公共施設の維持管理費用の負担軽減が、かなり重要かつ、緊急性の高い課題であると言えます。

また、公共施設マネジメントというのは、単に建物の範疇の問題だけではなく、少子高齢化、人口減少、将来のまちづくりの課題を変えていく・繋がっていくようなものにしていかないといけないということを、まず理解の上で始めていこうということだと思ひます。そういうご説明だったと思ひます。

では、今ご説明頂いた内容について、ご質問ご意見ございましたら、頂きたいと思ひます。どなたでも結構ですので挙手いただけたらなと思ひます。

(小松委員長)

挙手される方がいないようなので、私から質問させていただきます。

議題(2)において、一次評価から計画策定までの流れまで説明していただきました。その中で資料3最上段の第1回会議とは今回の策定委員会のことを指しているという理解でよろしいでしょうか。そうであれば、事務局での作業と本委員会の関係性が分かるよう、これらの繋がりを矢印で示してほしいなと思ひます。また、一次評価の結果を作成中ということは第2回の委員会において一次評価結果が示され、第3回で二次評価の結果が示されるということでしょうか。

(森高総務部参事)

二次評価については第2回会議においてお示しします。また、第3回において適正配置方針をお示しさせていただきます。

また、一次評価については現在作成中のため、第1回会議においては先ほどの公共施設マネジメントの必要性及び計画策定までの流れについての説明に留めまして、第2回会議

において二次評価と併せて一次評価についてもお示しします。

(小松委員長)

わかりました。よろしく申し上げます。  
では、風岡委員いかがでしょうか。

(風岡委員)

今年度で役員を退任することになるとは思いますが、2カ年にわたる計画策定に向けて、できるかぎりご協力させて頂きたいと思えます。

(小松委員長)

ひとつ共通の認識としてもっておかなければならないのは、公共施設マネジメントというのは、今の現役世代やその子ども達はもとより次世代にも繋がる計画だということです。20年30年先には実現しておかなければならないということを念頭に置き、想像を働かせながら知恵を出し合うことが重要であると思えます。

では、後藤委員いかがですか。

(後藤委員)

縮減目標の17.7%は、すでに他の会議等で決定した数字なのでしょうか。

(炭竈係長)

庁内会議で合意形成を図りながら、平成28年度に公共施設等総合管理計画を策定し、40年間で公共建築物の延床面積を17.7%縮減することを決定しました。

(後藤委員)

仮に17.7%の縮減目標を達成した場合は、人口減少が予測通りに進んでも問題はないということでしょうか

(平子総務部長)

削減目標を算出する際、平成28年度時点で保有する公共施設を40年間維持するという前提のもと、維持修繕等のコストを計算しました。具体的には、過去データに基づき必要コストの平均値を取り40年で乗じることで必要な維持修繕等のコストを計算します。

そして、仮に40年間その金額を投入したときに、必要なお金と使えるお金を同額にすべく計算し、延床面積で17.7%削減しないと財政的にもたないといった考え方が基礎になっております。

そのため、17.7%の削減目標が達成されればそれでいいのかといった話ではなく、今回個別施設計画を策定する上で前提条件となる目標の数字でありますので、将来の清須市の状況を見据えてこの場でご検討いただければと思います。

(小松委員長)

飯田委員いかがでしょうか。

(飯田委員)

高度経済成長期に膨大に公共施設が建設されたが、現在は財政的な厳しさから、ものを作る時代ではなくなっていると思えます。受益者負担の考えに基づき、相応の施設として管理していくなど、10年から15年後といった先を見越して、適切に対応方法を考えていかなければならないと感じております。

### 3 その他

(小松委員長)

では、全体を通して、私なりに補足をさせていただきます。

先ほど17.7%という数字についてですが、これは自治体によって数字がかなり違います。私がかかっているところで、一番大きな数字は40%です。ちなみに名古屋市は10%です。

また、施設ごとになるとこの削減率は、当然変わっていきます。例えば、名古屋市の場合学校が19～24%です。当然子どもの数も減ってきますので、それに合わせて減らしていくというようなことが必然的に行われると考えるそうです。そういったことを頭の片隅に置いていただきたいと思います。

また、数字とお金の話ばかりしてきましたが、同時に必ず考えなければならないことは、面積は減っても効率的なニーズに応えた公共施設は作っていかないといけないということです。

そうでないと、質の悪い公共施設が財政を圧迫していくだけです。やはり10年20年経っていくと求められるニーズも変わっていくので、それに合った公共施設を作っていくことが必要です。

例えば、子ども達が減っていくにつれて学校も減らざるを得ないといえます。ただし、今と同じような学校のままでいいのかということとそういう訳ではなく、やはり総数としての子どもの数は減ったとしても、教育の内容や学習の内容などの変わっていくものに対して、ちゃんと対応できる、若しくは場合によっては将来を見据えて投資するぐらいの計画でなければいけないと思います。

どうしても、今までの公共施設は無い状態のところ早く作らなきゃというところで、安かろう悪かろうという面も無きにしも非ずということだったと思います。

しかし、これからはそういう時代ではないので、やはり効率的な世の中の基本の建築水準に合った、それからそれぞれの施設で行われるサービス水準に、求められるサービス水準に合ったものをいかに作るかということのを忘れないでやっていきたいと思っています。

当然その先には、その周辺にある町おこしの観点なども当然出てきます。そのことは、私自身もすごく大事だと考えていますので、それは皆さんとぜひ共有してこれからやっていきたいと思っています。

それでは、本日の議論ですが、事務局からの説明については、ご了承いただいたということですのでよいと思います。

では、以後の進行は、事務局へとお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

(炭竈係長)

本日ご説明した旨はご了承いただいたということで、今後は、一次評価及び二次評価に移っていきたいと考えております。次回については、10月を予定しており、その際に、評価結果等についてご説明申し上げたいと考えております。

(岩田課長)

長時間にわたり、どうもお疲れ様でした。本日、財政課管財係から説明いたしました内容につきまして、ご不明な点などがございましたら、10月初旬に予定しています第2回の策定委員会前でも結構ですので、財政課管財係までお問い合わせいただければ幸いです。

以上で、第1回策定委員会を閉会いたします。

本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございました。お気をつけてお帰りください。